

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

栃 木 県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	那須町立黒田原中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	2	13	30
生徒数	122	118	134	7	381	

研究の概要

1. 研究主題

「学ぶ意欲に満ちた生徒の育成を目指して」
～豊かな学力をはぐくむ指導とシステムづくり～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年 全学年
実施教科 国語・社会・数学・理科・英語
理由 学年と教科の枠を広げ、他教科との関わりをもたせた研究に取り組むため

(2) 年次ごとの計画

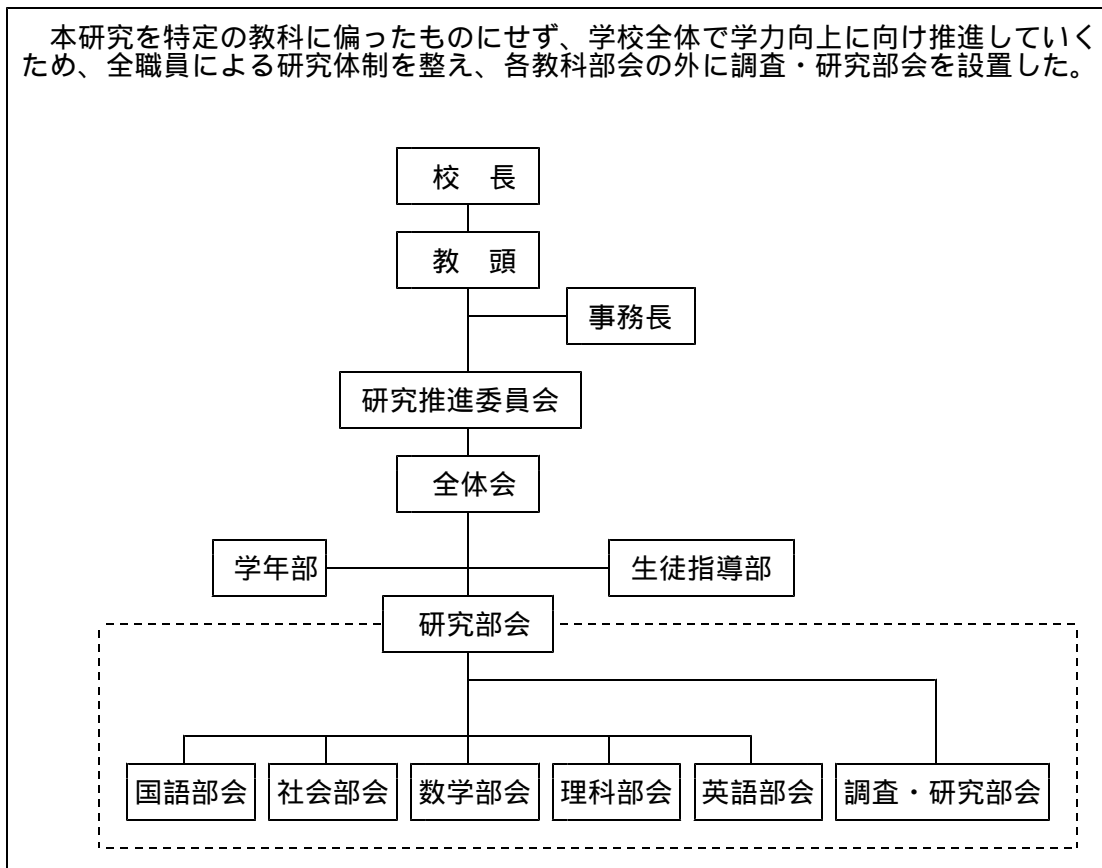
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ きめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫</p> <p>研究の見通し 数学や英語の授業では学習に対する個人差が大きく、従来の一斉授業の形式では、生徒一人一人の学習要求になかなか対応できずにいた。そこで、少人数学習や習熟度別学習を取り入れることで、この問題に対応し、生徒の学力を伸ばし、学習に対する意欲を高めることができると考えた。</p> <p>また、研究にあたり全職員体制で研究を進めることと、多様な形式のTTによる指導方法を探ることをねらいとし、数学と英語を中心とした5教科での指導方法・指導体制の研究を進めることとした。</p> <p>研究の内容・方法 ・5教科でのTT指導による授業の実施 時間割を細かく調整し、数学と英語の2教科は全時間にわたり、TTによる指導ができる体制を整えた。これにより、習熟度別学習や少人数学習が可能になり、幅広い学習のパターンが選べるようになった。また、国語・社会・理科の授業は3時間のうち1時間、TTによる授業を実施している。</p> <p>・コース別選択授業の開設 3年生の選択教科の時間に、「基礎」と「発展」の2通りのコースを設けた授業を5教科で開設した。生徒は多様な選択肢の中から、自分の好きな教科、コースを選ぶことが可能となり、発展的な学習や補充的な学習を進めている。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ きめ細かな指導のための指導方法・指導体制の確立</p> <p>研究の見通し 今年度の研究の成果と課題を検証しながら、生徒一人一人の学力に応じた指導を目指して、5教科において少人数学習や習熟度別学習を積極的に取り入れていく。研究1年目の成果としての学力に関する客観的なデータを年度初めにまとめ、その結果をふまえて研究の方向性を修正していき、本校生徒の基礎学力の向上につなげていく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5教科でのTT指導による授業の実施 効果的にTT指導を組める時間割を編成し、「わかる授業」「楽しい授業」をすすめ、生徒の学習意欲を引き上げていく。少人数や習熟度といった学習形態の工夫をはじめ、学習環境の整備や学習のきまりの見直しなども含めて、授業の質を高めていく。 ・コース別選択授業の開設 5教科においては、「基礎」と「発展」の2通りのコースを開設する。指導者の人数は限られてしまうが、指導体制を工夫して、「基礎」コースをより充実させ、補充的な学習を行う。 ・朝の短時学習の活用 これまでも実施してきた朝の読書活動と漢字練習の方法を改善し、生徒がより意欲を高めて学習できるよう学習内容を工夫する。
--------	---

(3) 研究推進体制

本研究を特定の教科に偏ったものにせず、学校全体で学力向上に向け推進していくため、全職員による研究体制を整え、各教科部会の外に調査・研究部会を設置した。



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ア 全校生を対象とした学習に関する意識調査の結果では、55%の生徒が、T Tの授業について「以前よりもわかるようになった」と回答している。習熟度や少人数の体制をとることで、基礎的・基本的な学力が身につく、意欲を高め、学習に向かえるようになったことがうかがえる。
- イ T Tによる指導をしたことで、T 1とT 2の役割が明確になり、複数の指導者で授業を展開するよさがあらわれるようになった。
- ウ 5教科でT Tによる研究をすすめたことで、教科の枠を越えてT Tの役割や効果的な授業形態などについて共通理解がはかられた。

2. 今後の課題

- ア 少人数学習や習熟度別学習を行うことで、生徒が意欲をもつことが確かめられたが、どの単元で行うことがもっともよいのかをさらに研究する必要がある。
- イ 1クラスに複数の指導者が関わるため、指導者となる教員の確保が必要であるとともに、時間割編成上の問題を克服していかなければならない。
- ウ 習熟度別学習やコース別学習を行った場合、どの場面でどの活動を評価するといった綿密な計画が必要になってくる。評価の方法についてもさらに研究する必要がある。

学力把握のための学校としての取組

CRTテスト（観点別到達度学力テスト）の実施
調査目的 本校生徒の学力の実態を把握し、取り組み課題を明確にするため。
調査時期 平成15年6月
対象教科 数学（全年）・英語（2・3年）
* 同テストを平成16年に実施し、研究実践の成果を確認する。

学習に関する意識調査の実施
調査目的 本校生徒の学習に対する意識、家庭学習状況等を調査し、研究の深まりとの相関関係を明らかにするため。また、調査結果を生徒や保護者に伝え、意識の高揚を図る。
調査時期 平成15年6月
調査対象 全校生
* 同様の調査を平成16年に実施し、研究の成果を確認する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

本校の2年間の研究内容と成果及びその後の方向性を示す目的で下記の研究発表会を予定している。
期日 平成16年11月11日（火）
内容 研究授業及び研究報告
対象 地区内の中学校及び学区内の小学校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無